



メディア・アドバイザー： 2020 FIA アジアパシフィックラリー選手権 (APRC)

発行日： 2020年5月19日

今週末、デジタル APRC は日本北部へ

2020年の仮想ラリーイベント、デジタル APRC の第2戦は5月23～24日に北半球、オンライン・ラリー北海道へ向かいます。

既に激戦となっている、DiRT Rally 2.0のプラットフォームにて争われるシリーズは、特に日本からのエントリーによってさらにレベルが上がるものと見られています。

熱心なゲーマーであり、かつ昨年の実際のラリー北海道をクスコのプリペアしたトヨタ C-HR を駆って優勝したドライバーであるマイク・ヤング選手は、このゲームは新たな種類のチャレンジであると感じているものの、アドバイスを一つ明かしました。

「DiRT Rally ゲームは実際のラリーよりもずっと難しいから、ラリーでの経験が役に立つといいな、と思っているよ。ラリー北海道は大雨になりがちで、時には雪も降る。ゲームでもコンディションに合わせたタイヤを選択することが重要だから、天候に注目しているんだ。」

イベントの開始は5月23日土曜日、ニュージーランド時間で0時ちょうど（日本時間では22日金曜日21時）。参戦者は最初のレグとしてこの時刻から24時間以内にこの日の9本のSSを走行することになります。最初のレグは、（実際のラリーの金曜夜を想定した）夜のステージ1本から始まり、サービスを経て昼のステージ5本を走行、再びサービスを挟んで3つのリピートステージを走行して初日が終わります（訳注：つまり初日に走るの、1本+サービス+5本+サービス+3本の計9本です）日曜も同様に、選手は24時間以内に、5本+サービス+3本の計8本のスペシャルステージを走行してラリーのフィニッシュとなります。

初戦、オンライン・インターナショナルラリー オブ ファンガレイでの選手からのフィードバックでは、リアルさが非常に高いとのことでした。完走できるタイヤチョイスとドライビングスタイルを保ち

つつプッシュしていく過程で、多くの選手がアイテナリが現実のラリーに似ていることに気づかされた、とのことでした。

ヘイデン・パットン選手のようなスタードライバーが速いタイムを刻んでいくなかでも、レースゲームシミュレーターの世界で活発に活動してきた選手たちとの経験値の差が、このシリーズがいかに激戦であることを示していました。

9月に開催が予定されている2020年のラリー北海道の主催者からのサポートを得て、このシリーズは日本での知名度を上げてきています。#RaceAtHomeのソーシャルメディアのタグを用いることによって、選手と観客は自宅にいながらにしてこのイベントに参加することができます。

最新情報はこの週末に渡って、FIA アジアパシフィックラリー選手権公式 Facebook ページ、<https://www.facebook.com/FIA.APRC> に掲載されます。

このリンクから、デジタル APRC クラブに参加できます：<https://dirtrally2.com/clubs/club/321214>

以上。

写真： デジタル APRC 第2戦、オンライン・ラリー北海道に向けてシミュレーターのセットアップをテストするマイク・ヤング選手（クスコレーシング）。



#RaceAtHome

詳細は以下にご連絡ください。

Lance Hastie

FIA アジアパシフィックラリー選手権 メディアデリゲート

+64-21-329-090 / media@fiaaprc.com